

「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 竹田

開催概要

【開催日：令和5年12月15日（金）】

〔学校訪問〕 竹田市立竹田中学校

〔訪問者〕 大分県教育委員会（岡本教育長、教育委員、教育次長 他）

竹田市教育委員会（志賀教育長、教育委員 他）

1. 概要説明

竹田市立竹田中学校では、「自立 尊重 創造」を学校の教育目標とし、①学力向上・授業改善及び人材育成、②働き方改革の推進・業務改善、③地域との連携、の3点について組織的に取組を進めている。また令和5年度より、3校（竹田中、都野中、久住中）が統合して新たな竹田中としてスタートしていることから、学校運営協議会の工藤会長と竹田中 PTA の佐藤会長にも出席いただいた。工藤会長からはスクールアシスタントが、部活動、授業、放課後学習等へのサポートに取り組んでいることの紹介があり、佐藤会長からは校区の広がりや PTA 規約の見直し等、苦労したものの新竹田中学校 PTA 活動に積極的に取り組むことでスムーズに各種活動が進んでいることなどの報告があった。



概要説明をする竹田中 渡邊校長



学校運営協議会 工藤会長



竹田中 PTA 佐藤会長

2. 授業参観

全学級において授業公開があった。また、担当教員の体調不良による急な授業変更があったが、別の教員が即時に対応して授業を公開するなど、組織的な対応力の高さも伺い知ることができた。



3. 意見交換(主な意見)

- ・竹田市が統合に向けて、様々な取組や準備を積み重ねてきたことがわかった。生徒の様子を見ると、制服は異なるものの、とても明るく仲が良さそうであった。
- ・子どもたちの様子については、規模の小さな都野中から来た生徒が、現在生徒会長として活躍している。都野神楽も文化祭で発表した。また、弁論大会においては、久住中学校出身の生徒が、「統合当初は不安だったが、どんどん仲良くなっている」という内容を堂々と発信した。
- ・数学については、研究部会が充実している。授業力向上アドバイザーや教頭も積極的に参加しており、市全体としてもベクトルをそろえて、取組を進めている。

〔意見交換会テーマ〕「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上
～竹田市の学力向上対策について～

〔出席者〕 学校訪問参加者及び学校関係者

1. 竹田市の取組説明「竹田市の学力向上対策について」

竹田市では令和5年度の各種学力調査等の結果を受けて、スピード感を持って竹田市学力向上プランの検証と取組の見直しを行った。それを踏まえて市全体で行っている①組織的な授業改善、②人材育成、③個に応じた指導支援、の具体的な取組について説明があった。



取組説明をする渡邊課長

2. 意見交換

(1) 竹田市の学力向上対策について

まず、テーマごとに出席者より、具体的な取組の紹介があった。当日は、小中学校の校長だけでなくミドルリーダーである教務主任も参加した。また、竹田市内の県立学校の3名の校長も同席した。

① 組織的な授業改善の取組（説明）

- ・授業改善に力を入れて取り組んでいる。特に校内研究においては、“教師も子どもも楽しむ”ことをテーマにして取り組んでいる。限定的な研究主題でなく、自分たちが取り組みたい研究内容を選択、計画し、組織的に取組を進めている。
- ・学力調査の結果を受けて、全教職員で3つのこと（①学習規律の徹底、②宿題と連動させた小テストの実施、③教師及び生徒との板書写真の共有）に取り組んでいる。特に③について、生徒は板書写真を見直すことで、授業のポイントを各自で再確認することができている。また、この取組の副次的効果として、教職員の人材育成や授業改善にもつなげることができている。
- ・初任者が定期的に配属されるので、組織的な授業改善は不可欠である。主に4つの取組（①宿題の出し方の統一、②単元テストの統一、③保護者の協力を得た月1回の自学ノートと単元テストの点検、④互見授業の定期的な開催と若手教員からのリクエストによる校内研究の充実）を進めている。

② 人材育成（説明）

- ・2学期のはじめに「徹底すること。それができないと崩れていく」ことを教職員と確認している。教科部会では、多くのことを学ばせている。また、ランチミーティングを単なる情報交換で終わらせずに、自校のベテランの好事例を動画で提供するなどして、学びの場としている。
- ・ミドルリーダーの立場として、管理職に直接相談する前に、「何でも言っているよ」という雰囲気づくりに努め、一旦自分が受け止めることを心にかけている。若手からは、生徒指導や保護者対応などの悩みがよく聴かれている。一つ一つ丁寧に対応し、着実に成長している姿が見られる。

③ 個に応じた指導支援（説明）

- ・数学については、小学校の躓きを解消していかないと数学の力がしっかりと身についていかない。このようなことから、ミニテストで小学校のどこで躓いているのかを把握し、どの学年に立ち返って学び直すのかを本人と保護者の意向を踏まえて決めさせ、取り組ませている。

(2) 中高連携について（竹田高校より紹介）

- ・高校セミナーは、英語・数学で6月から月1回ペースで実施し、延べ103名が参加している。アンケートの肯定的回答はとても高く（満足度99%）、「高校生がやさしく教えてくれた」等の回答も得ている。また、教員養成系を目指す高校生にとっては、自分の経験等を伝える等とても良い機会となっている。指導する高校の教員の悩みとしては、教材の選定などがあることから、中高相互の授業研究会などを通して、これまで以上に中学校教員と連携を深めていきたい。

(3) 教育委員からの主な意見

- (県) 竹田市が一丸となって取り組んでいることがわかった。大切なことは、子どもが学習に興味を持ち、教師とつながりを深めること。教員の入れ替わりも大きいが市全体でベクトルを揃えつつ、楽しくて力のつく授業実践を積み重ねてほしい。
- (県) 「授業改善」と一言で言っても簡単なことではない。組織的な取組と教員一人一人の力の両輪が揃わないと授業力は向上していかない。同じように進めていける体制づくりと併せて、教員一人一人の個性やよさを引き出してほしい。
- (市) 現在、地域の小学校での毎週水曜日の「学びの教室」に10年ほど携わっている。学校とどのように進めていけば良いのかを常に情報共有を行いながら進めている。子どもたちの様子を見てるとやはり、復習や練習は必要だと実感している。
- (市) これからの学びについては、“競争の学びからの脱却”が必要となる。なぜ学ぶのかを子どもたちに絶えず投げかけていくことが大切になる。例えば、英語は流暢に話せなくても生活ができ、様々な人と関わることができる。世界はどんどん広がっていることも伝えていく必要がある。



意見交換会での様子

(4) 意見交換を終えて

① 岡本県教育長より

子どもたちの様子も授業参観を通してしっかりと見る事ができた。生徒の様子はとても明るい様子で楽しそうであった。テーマ別意見交換会では、各学校が課題を的確に捉え、学校規模に応じ、どのようにすればよいかを考えながら、取り組んでいる様子がわかった。教職員だけでなく、生徒と板書写真を共有することなどは、どの学校でもできる素晴らしい取組である。参考になる取組がたくさんあった。



岡本 県教育長

② 志賀市教育長より

竹田中学校の生徒の様子を「清々しい」、「目が輝いている」などと言っていたいただき感謝している。生徒が教師をいかに信頼しているかが、とても大事である。市全体としてもしっかりと取り組んでいきたい。また、数学だけでなく英語についても「月1研修」の開催など市として力を入れて取り組んでいる。ゆくゆくは、“英語のまち竹田”と言われるように取組を深化させていきたい。



志賀 市教育長